

Q 仮称つるの駅構想と農大跡地周辺の今後

うちの
内野 嘉広 議員



A 新しいにぎわいと憩いの場の創出を進める

問 仮称「つるの駅」構想のイメージについて。

答 農業大学校跡地周辺は、鶴ヶ島グリーンパークや運動公園が隣接し、豊かな自然環境が整っている。こうした特性を生かし、仮称「つるの駅」と一体的な利用を促すことは、本市の魅力をより引き出すものになると考えている。家族連れや若い世代が集い、様々な食や自然散策

などを自由に楽しみ、笑顔と活気があふれるにぎわいの場とすることが理想と考える。

問 地域産業との連携について。

答 食をテーマとした企業の出店による誘客効果を地元農業者や商業者への利益に波及させることは、地域産業の振興を図る上で重要と考える。地元の農産物を直売するコーナーの設置や市内の観光農園や商店、飲食店



桜咲く鶴ヶ島市運動公園

Q 高齢者施策について

こばやし
小林ひとみ 議員



A 高齢者が抱くデジタル化への不安を解消し、支援していく

に足を運んでいただくための情報発信コーナーの設置など、対応策の検討を進めていく。

問 この地域に描くブランドデザインについて。

答 住んでいる人や訪れる人、企業などとの多様な関わりが生まれる場として捉えている。さらには、スポーツや自然を楽しむ憩いの場など、産業と自然が融合するエリアというイメージである。



スマホ教室

問 高齢者へのデジタル支援の考え方は。

答 国におけるデジタル化社会の実現に向けた動きが加速する中、デジタル化に対応することができない高齢者への支援は必要不可欠であると考える。

問 本年3月にスマホ教室を開催しているが、内容は。

答 携帯電話会社の方を講師に招き、基礎から活用までを行う2日間の講座を、市民センターなどの4会場で実施した。

問 今後、継続していくのか。

答 令和4年度は、基本編、応用編、活用編の3日間の講座を、四つの市民センターを会場として年3回実施したい。そのほか、

老人福祉センターに週1回、インストラクターを配置してデジタル活用の支援を行う。

4年度に実施した内容を踏まえて、その後については検討していく。

問 高齢者をデジタルサポーターとして育成し、スマホ教室の講師とする取組への考えは。

答 高齢者の社会参加、生きがいなどの面を踏まえ、検討する。

◎その他の質問

一 障害者手帳アプリ（ミライROID）の利用について

二 障害者コミュニケーション条例の制定について